

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	地域包括ケアシステムを構築するために必要なスキルとは？ ～引き出す力とまとめる力～
演者名	倉本剛史(1) 齋藤昇(2) 青柳浩太郎(3) 林田直美(4)
所属	苓北クリニック(1) サイカイ薬局(2) 天草病院(3) 訪問看護ステーションあこう(4) 特定非営利活動法人つなぐ(1)～(4)

目的

地域包括ケアシステムの構築のため各地で様々な取り組みが行われているが、「会議のやり方がわからない」、「ワークショップを行っても盛り上がらないし、あまり来たがらない」、「声の大きい人がワークに入って発言ができなかった」、「アイデアは出しても何も決まらないし進まない」といった声も少なくない。そこで、医療の多職種で構成された特定非営利活動法人つなぐでは、コミュニケーションスキル・ファシリテーションスキルを気軽に学ぶ機会を作り、地域連携が促進される下地作りを行った。

実践内容

コミュニケーションスキルとして、クライアントの価値観などを引き出し行動変容に導く、今やカウンセリング技法のグローバルスタンダードになっている「動機づけ面接(MI)」に着目し、勉強会を度々開催。また、コミュニティーリーダー養成やファシリテーションスキルの勉強会に参加し得た技術のシェアや、熊本大学 HIGO プラグラムの講師と協働して地域での「ファシリテート研修」を行うようにした。

実践効果

MI のスキルを学ぶことにより、参加者の考えや思いを否定することなく引き出すことができ、アイデアを融合することで新しいものの見方を実践できるようになる参加者が増えた。また、ファシリテーションを学ぶことでアイデアの構造化が円滑になり、より納得性の高い合意形成ができる会議が可能になった。

考察

「顔の見える連携」と声高に叫ばれているが、顔を合わせるだけでは連携は進まない。考えを引き出し、引き出され、融合させ、まとめる事(見える化)ができれば、より連携は進めることができるのではないだろうか。そしてこの学びは、活動するメンバーの自信・自己効力感にも繋がっていると思われる。